

中国の交通事情その1

細谷 和宏

新年あけましておめでとうございます。早いものでもう12月が終わってしまいました。私の語学力も相当スパルタに授業が進んでいるおかげでちょっとした日常会話ができるくらいになってきています。このところつくづく思うのですが、留学してよかったと思うひとつとして、日本で中国語を勉強するよりはるかにハイスピードでからだに定着しているような気がするのです。とにかくここでは、中国語を道具として使わなければ生きていけないのです。日本で学んでいる限り、ここまで切羽詰った形で中国語が必要な状況に迫られることはないと思います。語学の習得で切実に感じたことが他にもいくつかあるのでまた機会があればレポートしてみたいと思います。

最近、ここ太原市では日中も零下の日が続いています。最低気温はマイナス20度に届く勢いです。それにさらに乾燥がすごいので男の私でも日ごろケア一したことのないくらい全身に保水クリームを塗らなければ肌がひび割れてきます。ウソのようですが、腕を見ると80歳くらいのおじいさんの腕のようです。もし、肌の弱い女性が冬に（夏でも日本では考えられないくらい乾燥しています。）渡航をお考えの方は日本で普段行っているケアではおぼつかないかもしれないので十分な準備をしてきてください。その他にもしばらく他国で生活するとさまざまな体調変化を感じるがあります。食生活の変化や気候の違いが主な原因だと思いますが、そのことについても機会があればお話ししたいと思います。

さて、いよいよ本題に入ります。これをお伝えしないで何をお伝えするのとも言えるほど重要なテーマをお伝えしたいと思います。それは中国の交通事情です。

中国国土の流通のかなめはなんと言っても自動車です。国土が広大なためか路地を除けば、片側3車線が当たり前です。整備中だった大学の前の道路が12月中旬ごろに全面開通となりましたが、片側5車線です。

ここ山西省は北京の西部にあります。北京からはこちらの新幹線で3時間近くかかります。面積はなんと、山西省を二つちょっとと日本の全国土面積とはほぼ同じくらいです（山西省約16万㎡、日本全土約37万㎡）。こんな広大な土地に電車路線は数本しかありません。もちろん地下鉄もありません。あとはすべて車での輸送になるので、近年の内需の大きなテーマのひとつに道路整備が挙げられ、いたるところで道路工事を行っています。なんでこんなきれいな道路を直すのかと思うところもどんどん掘り返してきれいにしていきます。

話を戻します。中国での交通ルールは、自動車の方が人間より優先されます。正式にそのような法律になっているかは不明ですが、間違いなく実態はそうです。これが理解できないと中国のすべての道路交通事情を理解することはできません。皆さんにお伝えしたいことの最大のポイントがまずこのことです。これを忘れていては中国で生きていけませんし、オーバーではなく生命の危機にさらされます。

ちなみに、数年前に日本人の大学の先生が交通事故に遭遇されて不幸にも亡くなられたそうです。そしてその保証が日本円で100万円ほどだったそうです。あくまで人伝えの話なので真実かは分かりませんが、これは相場よりかなり高額だとのこと。はっきり言って中国でこんなめには絶対に遭いたくないと思います。

中国の交通者優先順位は、何度も言いますが、車、バイク、自転車（バイクのような電動自転車が自転車のなかでも主流です。体裁は日本で見ると250ccクラスのスクーターみたいな乗り物がヘルメットなしで、二人乗り、三人乗りして乗る電動自転車です。）、人間の順番です。

交差点で横断待ちをしても、30センチくらいまで右折車が歩行者に近づいてきて思いっきりクラクションを鳴らします。俺が通るのだから邪魔だ、退け、と言うのです。こちらが外国人だと気付くと少しは遠慮してくれるようですが、状況は常にこんなです。とにかく、車の間を人間がやっと通らせてもらうといった感じです。たぶん、私が感じるころですが、車を持っている者は高い階級層の者で、自分が歩行者より優先するんだ、と言っているように感じてしまうのは私だけでしょうか。

ところが、歩行者も黙ってはいません。信号無視は当たり前です。交通量が少ない横断歩道のない車道をちょっとした隙間でもどんどん渡っていきます。車線の間立ち止まろうとおかまいなしに横断します。車がビュンビュンと真横を通ります。歩行の信号が青になるのを待って横断する人はまずいません。話は反れますが、日本の銀座や秋葉原など中国人観光客が多く集まる観光スポットで、このような信号無視、横断歩道のないところを集団で横断する中国人の多いことがちょっとした社会問題になっているとも聞きました。

さらに危ないのは自動車より電動自転車かもしれません。電動自転車は私が見る限り（正式な中国の交通規則を知らないなので、見たままをお伝えします。）日本でいう軽自動車扱いの交通規則はありません。平気で3車線、4車線の道路を逆行して走ったり、歩道を二人乗り、三人乗りして走ります。さらに、信号無視は当たり前、歩行者のように隙さえあれば、どんどんクラクションを鳴らして大きな交差点の真ん中でもどこでも侵入してきます。交通整理をする警察官もそんなことにいちいち注意をしたり、取り締まったりはしません。夜間

はもっと怖いです。そもそも街灯がとても少なく大きな道路でも路上は真っ暗です。そして、バッテリーのロスを少なくするためか、電動自転車のほとんどが夜間ライトを点灯しません。そんな中を歩道でも繁華街でもどこでも音もなく走り、突然大きなクラクションを鳴らされるのですからたまったものではありません。



車も自転車もいっしょになって道路を交通します。

一般的な交通の状況についてはこれくらいにして、更にこのこともお伝えしたいと思います。排気ガスの問題です。

やはり中国では排気ガスのスモッグがすごいです。私は10分くらいバスやタクシーを乗ると窓を閉めていても気持ち悪くなります。普段日本では車酔いするわけではないので、どうして中国では気持ち悪くなるのかと考えたところ、ここ中国は日本みたいな排ガス規制がないのか、マフラーがとれたトラックやナンバーのない手造り？みたいな車が平気で公道を走っている影響ではないかと考えています。そんな車が信号待ちで横に停車するとものすごく白いディーゼル車の排気ガスがばらまかれます。太原は北京の大気汚染問題ほどではないようですが、気管の弱い方はあまり外に出ない方がいいかもしれません。大学

を出てちょっと5分くらい歩いて帰り、鼻をかむと真っ黒です。まったく気管が弱くない私が咳こんだり、目が痛くなったりするので、喘息をお持ちの方は特に十分な準備をお願いします。これも人に聞いた話ですが、中国では肺がんで亡くなる人が他の国より非常に多いそうです。公道の横をちょっと歩いても気持ち悪くなるので、最近では外出好きな私でも大学外には極力でないようになってしまいました。ちなみに大学は縦（南北）約2キロメートル、横約1キロメートルあり、その中に銀行、郵便局、スーパーマーケット、携帯電話会社、幼稚園、ホテル、床屋などとにかくなんでもあるので、大学内だけですべての生活を完結できます。

私は一日中黙って部屋にいるのが苦手です。外に出ないと気が済まない性格です。中国に来たら土日はなにも行くところがなくてもあっちこっち散歩して歩きたい、と考えていたのに、すっかり外出しなくなってしまいました。大学内のグラウンドで毎日10キロメートルほど走り汗を流してストレスを解消しています。ここ中国は、走るのも苦手です。一日中室内にいても平気という人向きの環境なのかもしれません。

このような交通事情ですが、何回も言いますが、これらはあくまで私個人が感じたり聞いたりしたことなので人それぞれ感じ方は違いますから長期滞在をお考えの方は、一度その地域に短期でお越しになってみて自分にあった環境がどうかを見極めてから長期滞在をするくらいの心構えの方がいいかと思えます。

来月のレポートは交通事情のその2として、この前に実際体験したタクシーでの出来事と大きなニュースにもなったバスでの事件についてお話ししたいと思います。



世界遺産平遥に行ってきました。